

学校だより

学校評価臨時号

令和3年2月26日 発行
新潟県立高田特別支援学校
上越市寺町 1-15-44
電話 025(524)6461

令和2年度 学校評価（年間）アンケートの結果をお伝えします。



11月末に実施いたしました学校評価（年間）アンケートに御協力いただき、ありがとうございました。
学部、寄宿舎並びに学校全体の取組状況について保護者の皆様よりいただきました御意見と、職員アンケートの結果を受け、職員で検討し、それぞれ「よい点」、「要望や改善すべき点」についてまとめました。

学校全体の取組

<よい点>

- 全保護者が「子供が楽しく充実した学校生活を送っている」「本校に入学させて良かった」にAまたはB評価をしている。
- 全保護者が「職員は、保護者や地域に対して誠意をもって対応している」にAまたはB評価をしており、職員も98%が同様の評価をしている。
- 学校として組織的ないじめ防止対策や教職員の共通認識を図るための校内研修を行い、職員の93%がいじめ防止の取組にAまたはB評価をしている。「学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる」に、ほぼ全保護者がAまたはB評価をしている。

<要望や改善点>

- △進学した際の学部間の引継ぎを確実にしてほしい。小中高一貫した教育をうたいながら、情報が確実に伝わっていない。
→中・高の校時表の見直しにより生まれる放課後の時間を有効活用する。前年度中に授業参観、体験活動を行った上で引継ぎ会を開催しているが、新年度が始まってから再度、学部間で情報交換する機会を設け、より確実に情報が伝わるようにする。
- △エアコンの増設、駐車場の混雑緩和、網戸設置、寄宿舎の浴室修繕等、施設、設備の改善、改修
→県への予算要望を続ける。安全点検を確実にを行い、計画的に改善、改修が図れるよう努める。
- △職員も保護者も地域・外部連携に関する項目への評価が低い。
→コロナ対応をしつつ、保護者や地域に学校の様子をより伝えていけるよう、行事の実施方法、広報の仕方を工夫していく。

小学部

<よい点>

- 子供一人一人に合った課題、役割、支援を行うことで、自分で分かって活動することができている。
- 子供たちの興味・関心がある場面を捉えて、「やりたい」「欲しい」「お願い」など自分の気持ちの表現方法を学習できるようにしている。
- 子供の課題や指導、支援の方向について、職員間や保護者間で相談し解決に向けて努力している。

<要望や改善点>

- △もう少し学校での取組が分かるように、便りを2週間に1回ではなく1週間に1回にしてほしい。
→現在の発行回数で、内容を充実させるよう努める。次年度は、コロナ感染症の対応をしながら実際に学校に来ていただく機会を確保し、学校での取組がより保護者の皆様に伝わるようにする。

中 学 部

<よい点>

- 挨拶やコミュニケーションの指導については、毎日の積み重ねの成果で、生徒の成長が見られている。その取り組みについては、保護者の方からも良い評価を得ている。学校と家庭がさらに連携し、将来に向けて確実に身に付くよう指導を継続していく。
- 様々な場面を通して、段階的に買い物学習を行い、実際場で活用することができた。
- 学級内での仕事の分担や、諸活動の中で、一人ひとりに役割があり、それに対して責任をもって取り組む姿が見られる。

<要望や改善点>

- △自学級の生徒にこだわらず、学年全体学部全体を見るつもりで、指導支援にあたっていくことが必要。
 - 音楽、体育、美術、作業、総合的な学習の時間などの学部合同の授業の中で、学年を超えての指導にあたっているが、再確認していく。
 - 毎月の学部会では、だれでも支援にあたれるよう、これからも生徒の情報交換をしていく。
- △日常生活の各場面に応じて、より丁寧で積極的な指導が必要。
 - 基本事項の未習得部分に目を向けたり、次の指導段階を考えたりして、一時的な指導ではなく、将来に向けた指導・支援を強化していく。

高 等 部

<よい点>

- 地域や社会、日常生活で使える力の育成をめざした授業
 - ・「生活」「家庭(かてい)」「ふれあい」などをとおして、知識や技能はもちろん、挨拶やルール、人との関わり方など、具体的な場面を設定する中で繰り返し指導しながら、実生活に生きる力が身に付いてきた。
 - ・「現場・校内実習」や「校外学習」など、実際の体験・経験を積み、社会に出ても通用する力を付けるための場の設定や指導がされている。
- 他学部や地域、外部との連携
 - ・作業学習において、学部間交流が図られた。昨年からは継続して小学部との交流を行っていた生徒については、児童への接し方(声の掛け方、支援の仕方)に慣れてきた。継続していきたい。
 - ・コロナで制約が多い中、学校周辺での路線バス乗車練習、無印良品移動販売車を使つての買い物学習、CAP上越を招いての人権学習など、現状でできる活動を考え、実行できた。

<要望や改善点>

- △中学部3年生から高等部への連続性ある指導について。
 - 年度末に行っている中学部3年生から高等部の引継ぎについて、高等部の職員が複数体制で聞き取りを行う。4月以降、生徒の様子が変わってきた時期に、再度旧担任と情報交換を行い、指導に活かす。
- △フリー参観が1回しかなく、学校の様子がよく分からない。
 - 面談時等に学習ファイルを保護者にお見せしたり、学年だよりをとおして具体的な取組内容をお伝えしたりする。
 - コロナ対応で今年度のフリー参観を減らさざるを得なかったが、来年度は、昨年度と同程度に戻す。

寄 宿 舎

<よい点>

- 挨拶をする場所と挨拶をする際の留意点を明確にし、場面を捉えて繰り返し指導を行ったことで、適切な挨拶や言葉遣いができる舎生が多くなってきた。
- 日々の生活から月ごとの目標設定など、個々の課題を見つけ、支援方法をチームで共有しながら支援することができた。
- 早下校の日は近隣へ外出したり体育館で運動したりしたほか、各棟の実情に応じて、棟内でも体を動かす時間を設定することができた。体を動かす際は、動かす部分に意識が向くように具体的なポイントを伝えるように工夫し、鍛える部分や活動を変えることで、楽しみながら取り組むことに繋がった。

<要望や改善点>

- △体を動かす場面が少ないように思う。
 - 曜日による下校時間の違いやコロナ対応の入浴時間確保により、運動の機会に偏りはあるものの、体を動かす時間は設定している。今後は連絡ノートや保護者との引き継ぎの際に、積極的に伝える工夫をしていく。令和3年度は下校時刻が早まり寄宿舎での活動時間が増えるため、体を動かす活動に有効活用していく。